



「生活する力の大切さ」

校長 目 澤 浩 美

高等部卒業生は12年間の学校生活を終え、4月からは社会人としての生活が始まります。人生の3分の2の12年間を学校で学び、特にこの3年間は「素敵な社会人になろう」の合言葉のもと、すべての学習活動に真摯に向き合ってきました。

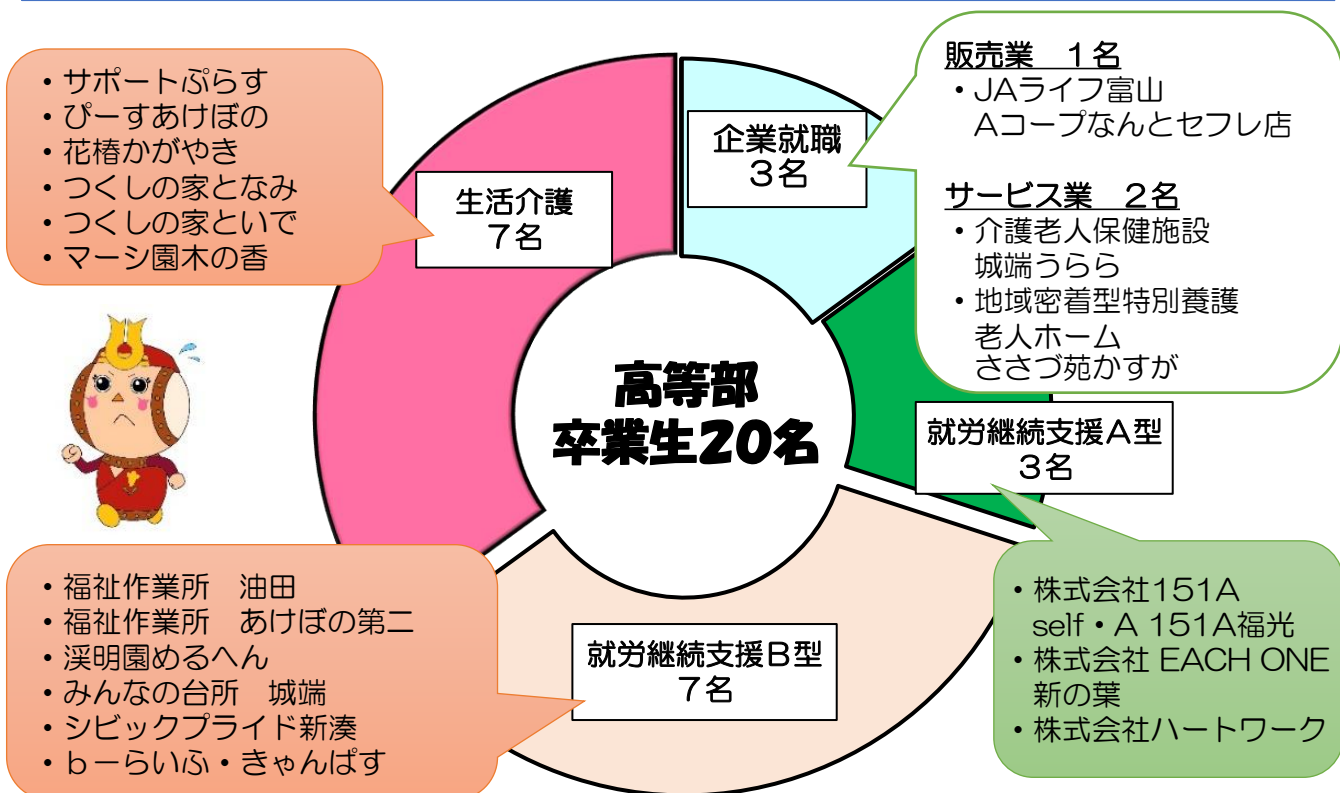
時を巻き戻すと、高等部に入学する前、中学部3年生のときは「何のために高等部に進むのか、何を学びたいのか」など、家族と相談し、進学の目的や自分の得意なこと・好きなことを考えながら進路を選んだことでしょう。小学部4年生からは委員会活動が始まり、自分のことだけでなく、学校やみんなのために学年・学部の枠を超えて協力して活動を行いました。そしてピカピカの小学部1年生のときは、広い校舎で様々な学習をしながら「できること」が増えて、大きく成長する1年間だったと思います。

このような12年間の学びの積み重ねによって、伸ばした力の一つに「生活する力」があると思います。

本号の裏面にあるように、先日の就労支援セミナーの講師の方は、「生活する力」が働くことのベースになると言われました。また、12月に発行した2号でお知らせした進路学習会において卒業生の保護者の方は、「家庭で特に行ったことは、家事の手伝いや挨拶。働くときに必要な力は、健康や体力」と話され、まさに「生活する力」と重なっています。

学校では、今後もそれぞれの発達段階に応じて「生活する力」を育むための授業づくりに励むとともに、家庭や関係機関との連携を十分に図り、一人一人の児童生徒を支えていきたいと思っています。

令和4年度 卒業生の進路先



特別支援学校 就労支援セミナー 2月21日(火)

高等部1、2年生の生徒と保護者を対象に、富山労働局主催の就労支援セミナーがあり「在学中に頑張ってもらいたいこと」「保護者の役割」「地域における障害者雇用の現状」について話を伺いました。

| | | |
|--------|------------------|---------|
| ＜ 講師 ＞ | 砺波障害者就業・生活支援センター | 武島 香織 氏 |
| | アルビスクリーンサポート株式会社 | 安田 泰弘 氏 |
| | 富山労働局職業対策課 | 山口 賢一 氏 |

武島氏の講話

働くためには、①生活する力、②働く人としての力、③仕事をする力の三つの力が必要になります。中でも、長く働き続けるためには**生活する力**が大切です。身の回りのことを自分ですること、集団の中でルールを守って活動すること、お手伝いを続けることなど、小学部や中学部で学習していることが、将来につながっています。



③仕事をする力

- 指示に従える
- 正確に安全に作業できる 等

②働く人としての力

- 時間、決まりを守る
- 注意されたら素直に聞ける 等

①生活する力

- 元気な体をたもてる
- 清潔な身だしなみ
- 家の仕事をする 等

安田氏の講話

就業体験は“働く”上で大切なことを学ぶ貴重な機会です。学校で学んだことを就業体験先で発揮し、就業体験で学んだことを忘れずに卒業後の生活へとつなげていってほしいです。生徒の皆さんは、進んでお手伝いをしましょう。保護者の皆さんは、卒業後の進路について、お子さんとたくさん会話をし希望を聞き出してあげてください。

今からできる“働く”への準備～家庭でできること～

- ①規則正しい生活→時間を決めて行動し、仕事を休まない健康な体をつくる
- ②元気な挨拶→相手より先に大きな声で挨拶する
- ③清潔な身だしなみ→自分の髪の毛、ひげ、つめ、衣服を自分で整える

セミナーを聞いて、生徒からたくさん質問が出ました

Q、職場で嫌なことがあったときはどうすれば良いですか？

A、職場の仲間、上司、家族に相談することです。

Q、給料のお金の管理方法を教えてください。

A、計画を立ててその中でやりくりすること、家族や支援機関に相談することも大切です。

Q、土日に働くことはありますか？

A、職場によっては土日出勤することもあります。事前に確認しましょう。